

新報

日ノ五(回三月毎)日行發
通政古金 編輯行發
地番五十四町田平縣島福
社聞新報民城磐 所行發
錢十三月ヶ一錢拾價定紙本
増特十定指錢十五行一料告廣

劃期的普選を機に

偽黨政友會を葬れ

政黨の存在價は政策的眞價と 政治的實行能力の有無にある

公約を無視する政友派

批政百出の田中肥料内閣を議會の牛誕に際し、何人を政の見るべきものなきに徴はコレヲ以つて三派内閣分
最後として制限議會は終り中央議會に送る可きか、選して明らかな事實である、裂の武器に供し去秋の縣議
を告げ、光輝ある普選議會 舉目標の重心を何處に置く
の出現を見んとして居る。べきか、候補者選擇の「ヒ
即ち寡頭政治、財閥政治よント」をいづれに定むべき
り民衆政治の轉換期に際しは貴重な選舉權を行使す
た。吾等はこの重大なる時に先ち第一に考慮すべ
運に當り、この劃期的普選き重大な問題である。

政友會の偽瞞的政策

立憲政治は政黨政治である。謂ひ得る。政友會は數年以
政黨政治の生命は政策に依來、積極政策なる大鼓を全
るのである事は贅言を要し國に打ち鳴らし黨勢擴張の
ない。即ち政黨の存在價値具に供し、甚しきに至つて
は其の抱懷支持する處の政は「政友會が内閣をどれば
策的價値の如何とコレが實景氣がよくなる」などデタ
行能力の有無如何にある、ラメを並べ無知な選舉民を
この意味に於て吾等は何等釣ることのみに吸々とし眼
の政策を表示せぬ中立團其中黨黨黨以外何者も有し
他の浮動團體の存在は無てないことは、政友會内閣
價値、不要のものであるとの出現以來約九ヶ月何等施

々補々まで聲明した。然る 同様にあり實に許す可から
に其の舌の根も干かぬうち ざる振舞である。釣り揚げ
五年度延期を臆面もなく聲 た「フナやドデヨウ」に餌
明するなど國民を愚弄する をやる馬鹿はないが天下の
も甚しと云はねばならぬ 公黨たる政友會が過ぐる府
即ち政友會は國民 縣會選舉に際し「地租委壞」
振出した約束手 なる政策を以つて選舉民を
形の支拂期日を債 釣りながら今日に至るも實
權者である國民に 行せぬ事は、選舉民をフナ
何等の相談なく書 やドデヨウあつかひにした
き替へたこと ものである。

黨略的な農地法案

政友會が約三年の長日月を であるが内容を巨細に檢ん
要し練り上げた一枚看板の すれば反つて自作農の撲滅
地租委壞ですらかくの如き 小作人虐待法案であること
有様である。いわんや解散を 知る事が出来る。今日
目當の、一夜造りの、農地 の統計に依れば、現在我國
金庫法案に至つては、杜撰 に於て、毎年壹萬戸以上の
極まるものであるかと思像 自作農が耕作地を失ひ小作
することが出来る。政友會 自作農の耕作地を失ひ小作
の誇稱する處に依ると、十 の事實は如何に現在の税制
八億の農地債券を發行して に於て、現在の金融制度に
現存小作地二百七十三萬町 於て、欠陥のあることを示
歩の三分の一を三十五ヶ年 めすものである。故に眞ん
以内に毎年八千萬圓を出し に政友會が農村振興を策す
て自作農地にするに云ふ事 なるなら、現在の税制金融制

(選)(學)(余)(談)

△解散、大會、公認、立 候補とあわたいしい日が
續いて黨員が血眼になつ てるのに本尊の比佐前
代議士の姿がなかなか現 れない、其うちに比佐は
明日にも知れん大病だな んて云ふ法もない流言
が現れて來るので幹部初 め黨員は氣が氣でない然
し依然として當人の姿が 見えぬ

△行く變だナと同志 も仕方なく續くと性源寺
の境内へスーと消い込ん だ
△石城憲政會の功勞者渡 邊老、金子木南の兩氏が
靜に眠る性源寺の墓地、 朝霜に膝まづいて祈る君
を見出した時同志はこの 情義に思はず目をしばた
いた、ズボラの様で細 心な、比佐君らしい實話
でないか
△一月の末野崎縣議の手 許に艶めかしい女文字の
書面、開いて見ると「ゼ

非立憲な議會解散

彼れ政友會は實行不能なる あり。議會政治に於て、議
偽瞞的政策を掲げて國民を 會は尤一の政府の國民に向
愚弄するに止まらず、第五 ひ責任を負担すべき場所
拾四議會開催に先ち民政黨 あり、然るに滿身〇〇の田
の猛襲をオンレ議會の 見浮動團體の實業同志會を於て國民の代表たる議員の
買収し、野黨の不信任案の 發言を阻止したることは
決議を封じ、尤一の在野 黨政府自ら國民に挑戦するも
たる民政黨をして一言半句 ある。吾等は飽くまで斯
の意見へ發表す、機會をく の如き内閣の存在を呪う
與へず、不法にも議會解散 と共に與黨たる政友會をし
を敢てなした。其の暴狀其 て、光輝ある普選議會の出
の非立憲なる態度は、國民 現に際し撲滅せんとするも
の斷じて默許出來ざる事 である。

鹿を追ふ

▲氏家清 一人、石城郡好間村の産、
(民公) 前回には星一の應援をした
双葉郡津島か、今回は民政黨へ入黨し
村の産、半たごせぬとかの噂があり
生を河野翁政黨的に疑問の人と見られ
に師事し憲て居る、法學士、辯護士
政のために
▲木村清治君
烈なる人格認新立候補するまでは中
者本縣幹銀行の専務元縣議をやつた
事長としてウタハル風貌怪事があり縣會座では議長に
偉力のある人相双が地盤なり損つて、反つて、金佛
▲山田忠正君 (中立) 居士の渾名と共に男を揚げ
久しく憲政會院外國で知られた人、年齡五十九才
▲比佐昌平君 (民公)
石城郡湯本町の産、民政黨
公認(前)早大政治科卒、前
藤系の人と見られて居る
▲松本孫右門 (政)
民政黨の佐藤富十郎君と戦
つて敗れた東京信用銀行の
頭取である、財力の方面で
は第三區候補者中一番だ
う年令五十六才
▲佐川潔君 (中立)
比佐の標語も馴染が深い
高潔なる人格と卓越した政
治眼を有して居る

民政論壇

郡内一周軌道論

商港と相俟つて

完璧を期せ

文化の向上、地方の開発は交通機關の整備による所頗る多い。石城の發展、石城の將來を説くもの亦こゝに着眼せねばなるまい。他郡にひし本郡は天恵豊かな地である。南は磐城七濱を抱き、背北は世に謂ふ常磐炭田を有して居る、加ふるに勿來の關跡、湯本温泉、川前溪流、新舞子等風光にも富んで居り、東北唯一の商港として的小名濱港も將にその陣容を張らんとして居る。斯くの如く石城郡の將來は今後の施設如何によつて急進な發展を見んとして居る。吾人はソノ施設の第一として郡内一周軌道の速成を郡民の前に提示したい。これは決つし不可能な事ではない。即ち既設の軌道經營者が融合一致し而して足らざるを補へばそれで出來るのである。平を發して湯本に至る軌道、湯本より小名、江名に至る軌道を加ふへ、新たに江名より豊間高久を経て平に出づる軌道

全民衆は選舉目標を如何に決すべきか

昭和維新の大業も一票の行使に依る

兩黨の政策を厳正に批判せよ

國民が多年渴望した劃期的普選も旬日に迫つた。制限議會より普選議會へ！特權、寡頭政治より民衆政治への曙光に民衆の血潮はおのづから高調するをおぼゆ吾々は此の憲政更上特筆すべき聖戰に直面して如何に戦ふべきか、民衆の選舉目標の決定如何は實に此の政戦を左右するもので實に重大なものである

混沌たる石城の政戦

侵入の魔手八方より延び 比佐氏樂觀を許さず

吾々は、批政百出、何等な憲法態度は、全國民を蔑視會に不利なるを知るや虚偽事を切望する。晴し、以つて國民をしてこの間の事理の判斷を迷はしめたのでなきに混沌これが爲め本部に於ては野盛り、言論戰の食糧、書狀めんとして居るが笑止千萬をきわめて居る石城政界は、崎若松鷲の三縣議を始め秋の洪水を現出するであろう

感歎した清水君は石城の天動にも着手して丁度清水君が和歌山に慌々の論陣を友人田淵君の爲め

氏家清氏平町に事務所を設置

事務所に設置

各地黨員、青年は速やかに選舉監視委員を揚げ、不純なる買収、戸別訪問、官憲の壓迫等の不法行為の監視をなせ

逐鹿美談

友愛と情義に綴られた三人候補物語

今を距ること八年の昔、大郡へ論陣をひかんと意氣正九年の總選舉當時のこと込み情に腕比佐君の眼に

丁度清水君が和歌山に慌々の論陣を友人田淵君の爲め

忙中閑

從來の選舉運動の第一戦法が主要なる戦術であつたが

記者は忙中寸閑を盗んで膨大な書狀の數を數いて見ると驚き可き數に達するの一寸紹介する

さらにこの封筒中には推薦状とか宣言とか挨拶状とか